週刊アミューズメントジャパン
Weekly Amusement Japan
©2010 Amusement Press Japan Inc.
editing & publishing／Amusement Press Japan
planning & production／Amusement Promotion
／Up Grade　printing／Four Plus One
本紙記事の無断転載を禁じます。

HEAD LINE

2面 ● 大阪・レトロパチンコがオープン
3面 ●「パチスロ スーパー海物語」先行ファン交流試打会　●連載コラム 大崎一万発　5面 ●CO₂排出量発表 全日遊連
8面 新機種情報
パチンコ「CRぱちんこサクラ大戦2 HV」サミー
「CR花の慶次～愛 H-V/H-VG」ニューギン
「CR哲也～雀聖と呼ばれた男～天運Ver.」大一商会
「CR舞-HiME F」西陣
「CR一騎当千SS 覇」高尾
パチンコ「CR吉宗」大都技研
「CR天上のランプマスター S128」豊丸産業
「フィーバーパワフルパレス」SANKYO
「フィーバーキングブレイド」SANKYO
パチスロ「みどりのマキバオー」平和

2010年（平成22年）1月25日　月曜日　第210号（毎週1回発行）
APJ
本新聞はヤマト運輸(株)に委託して、ポスト投函方式でお届けしています。（郵便物ではありません）
パチンコ・パチスロ最新機種速報
週刊アミューズメントジャパン
Weekly Amusement Japan
2010年 1月25日【月曜日】
編集・発行所　株式会社アミューズメント プレス ジャパン　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアシスト5F　TEL 03-5447-0555　http://www.amusement-japan.co.jp

ホールで突然の心肺停止

AEDが救う

スタッフが講習の成果を発揮

2004年から一般市民でも使用が可能になり、全日遊連の共同購買事業で多くのホールにも設置が進んだAED※だが、使用方法がよくわからず、単に設置しただけというホールも多い。不特定多数の老若男女が来店するホールは、日頃からAEDの使用方法を理解することが望まれる。長野県のホールでは、AEDを使って一人の女性客の尊い命を救った事例がある。スタッフが講習を受けていたからこそできた救命だった。

救命に当たった田村亮フロアマネージャー（左）と割田夕紀さん

ホール店内で女性客倒れる

昨年11月29日、日曜日の午後。「スーパーライオンズ大豆島店」（長野県長野市）の店内は満席状態。店内は客とスタッフの活気に満ちていた。

その時、パラエティコーナーで遊技していた女性客（60代）が突然倒れた。巡回していた男性スタッフが気づいて声をかけるが、まったく反応がない。すぐさまインカムで他のスタッフに報告。その状況を聞いたアルバイトスタッフの割田夕紀さんは、現場に駆けつけた。女性客はうつぶせで、柱にもたれるようにして倒れていたという。

田村亮フロアマネージャーも駆けつけ、心肺停止を確認。すぐさまAEDが設置してある景品コーナーまで、女性客を抱えて運んだ。

二人ひと組になり、割田さんが人工呼吸を、田村フロアマネージャーが心臓マッサージを行った。それでも意識は戻らず、AEDを使用した。救急隊が到着するまで電気ショックを与えながら救命措置を続けた。倒れているのを発見してから、10分ほどの出来事だった。

この女性客は、運ばれた病院内で息を吹き返し、意識も取り戻したという。ホールでの迅速で的確な救急措置が、尊い命を救ったケースと言えるだろう。事件から2日後には女性客の村フロアマネージャーが店に訪れ、感謝の意を伝えた。

国内では、1日に約160人が心筋梗塞などの突然の心肺停止で亡くなっているという。特にホールでは、大当たりに興奮し、心臓に負担をかけるケースもある。そのことを考えると、ホールにおいて一般市民が心肺停止する場面に遭遇する確率は高いと考えられる。

「スーパーライオンズ大豆島店」では目につきやすいエントランスにAEDを設置

AED普及協会では、講義と実技合わせて4時間の実習を行っている

現場は緊迫 助けるのに必死

田村フロアマネージャーは、かつて覚えたことがないほど緊張したと振り返る。

「自分の判断一つで、他人の命が助かるか助からないかが決まる。訓練ではなく、本番。救命措置を行う手を止めることはできない。心臓が飛び出すほどドキドキしたがやるしかない。とりあえず助かって欲しい一心で、必死だった」

AED普及協会の大久保実副代表理事は、「AEDを使っても亡くなってしまった場合に誰が責任をとるのか」、また「間違ったらどうしよう」などといった思いから、どうしてもAEDのボタンを押せない人もいる。どうか勇気を持ってほしいと呼びかける。

救命に当たった割田さんは、自動車免許を取得する際に教習所で人工呼吸などの講習を受けたばかりだった。

「講習会は2回にわたって行われ、1回目は講義を受け、2回目は本格的な実践を踏まえた形で人形を使って人工呼吸や心臓マッサージなどを行いました。ここでの講習が実際の現場で活きた。しっかり学んでおいてよかった」

［AEDの操作方法］

①電源を入れる。以降はAEDの音声ガイドに従って操作を行う。②パットを図に従い、電極パットを装着。汗や水で濡れていないか、張り薬などはないかをチェックする。③コネクタを接続。心電図の解析中、患者から離れるように指示。AEDの充電が完了したら安全を確認する。④ショックボタンを押す。救急隊が到着するまでAED対処を続ける。

AEDの使用で生存率は1・6倍に

消防庁がまとめた「救急蘇生統計（08年）」によると、一般市民による応急手当てが行われた場合の1カ月後の生存率は12.8%。行われなかった場合の8・2%に比べて約1・6倍だ。1カ月後の社会復帰率に関しても同様の結果で、救命措置が行われなかった場合に比べて約2・2倍復帰率が高くなる。一般市民による迅速な救命措置が、救命や社会復帰のためにいかに重要かがわかる。

厚生労働科学研究によれば、08年12月末時点のAEDの設置台数は約21万台。医療機関や消防署以外では、一般市民が使える場所として公的施設や商業施設、マンションなどで約15万台が設置されている。自治体や中小企業庁では、「商店街活性化事業の一環」などの補助事業で普及に取り組んでいる。

全日本遊技事業協同組合連合会（全日遊連）は08年9月から、AEDの設置台数を全国の加盟店に促している。AEDは通常30数万円するが、全日遊連が医療機器業者と契約しているため、割安で購入でき、ホールでもAEDの設置が進んでいる。

AEDの使い方 実習の必要あり

AEDの設置台数は増加傾向にあるが、大久保副代表理事は依然として使えない人が多すぎると語る。

「販売会社がAEDを売る際に、使い方は説明するが、実習までは行わない。AEDのインストラクターの数も少ないのが現状。ある所では、自己流でクマのぬいぐるみを使って講習を行ったというところもある。不安で使えない人が多いのは当たり前」

AEDを使用するためには資格はいらない。「中途半端にAEDの使い方を覚えているだけでは、いざという時に対応できないのではないか」と現場を体感した田村フロアマネージャーが語るように、AEDの講習を定期的に開き、使い方を習熟することが必要になってくる。

AEDの講習は各管轄の消防署および、日本赤十字社、AED普及協会などに問い合わせることで受けることができる。

※自動体外除細動器。心室細動（心肺停止の一種）の際、電気的なショックを与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器。